

# SHOWA UNIVERSITY NEWS

11

NOV. 2023

昭和大学新聞

通巻 第616号 (奇数月発行)

## いつもの大学祭・学校祭が戻ってきた!

学生からの寄稿 海外研修報告



2 Special Feature  
旗ヶ岡祭・いぶき祭・  
ホームカミングデー [旗の台キャンパス]  
緑風祭 [横浜キャンパス]

6 Student Life  
学生海外研修報告  
「異国での学び、医療者の姿勢」  
全力投球！ 夏季スポーツ大会

10 Press Release  
小児用シロップ剤が0.5ml単位で簡単に計量できる  
「シロップびったりシロビィ」発売  
乳幼児のシロップ投薬が素早く正確に  
肺障害を引き起こす化学物質の解毒や  
医薬品の副作用軽減に期待  
国際学術誌Redox Biologyに掲載される  
日本初！ HPVワクチンの子宮頸がん予防効果を確認  
ワクチン接種促進につながる  
インパクトの高い研究成果

14 News & Topics  
医学部白衣授与式 大学院秋季修了式、入学式  
リカレントカレッジ秋期入学式・開講式  
解剖慰霊祭 父兄会秋季部会  
旗の台一丁目町会祭禮 ほか

21 Database  
令和5年度科学研究費  
助成事業採択課題一覧  
歯学部 薬学部  
入学試験結果  
大学院 助産学専攻科  
大学院修了生・新入生一覧  
夏季スポーツ大会競技結果

26 Meeting Report (学内会議報告)

27 Information

旗ヶ岡祭・いぶき祭・ホームカミングデー・緑風祭

気持ちのいい秋空のもと、  
弾ける笑顔が  
キャンパスに戻ってきた!

旗ヶ岡祭 Hatagaokasai  
いぶき祭 Ibukisai

10月14日・15日の2日間、第63回旗ヶ岡祭（大学祭）を旗の台キャンパスで開催した。

同大学祭は学生で構成される実行委員会によって開催され、「開花」をテーマにステージ企画や模擬店、展示などさまざまなプログラムで盛り上がった。

開会式ではダンス部や軽音部、アコースティックギターサークルや応援指導部によるパフォーマンスのほか、近隣の小学校から参加の音楽隊による演奏も披露された。

このほか、スタンプラリーやお笑いライブ、バザーなどの各催しには、地域から多くの方にご来場いただいた。

また、同日、医学部附属看護専門学校では第49回いぶき祭（学校祭）を開催し、こちらも学生が主体となって、感染対策（手洗い）や妊婦体験など、看護の知識を活かした企画が催された。



10月15日、第16回昭和大学ホームカミングデーを上條記念館で開催した。

開式にあたり、昭和大学管弦楽団の演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

今年の招待学年は、ゴールデン記念表彰（卒業後50年）となる医学部41回生、薬学部4回生の方々、シルバー記念表彰

（卒業後25年）となる医学部66回生、歯学部16回生、薬学部29回生の方々、そしてブロンズ記念表彰（卒業後15年）となる保健医療学部8回生の方々で、163名が参加された。

式典では、久光正学長による各招待学年代表者への表彰楯贈呈のほか、招待学

年代表者による挨拶や昭和大学宣言、校歌斉唱が行われた。

懇親会では、参加者が旧交を温め、参加者からは「久しぶりにみんなに会えてよかった」「楽しい時間だった」などの声が聞かれた。

ホームカミングデー Home Coming Day

# 緑風祭

Ryokufusai

第24回緑風祭を10月28日・29日の2日間、横浜キャンパスで開催した。同祭は学生の実行委員会によって企画され、各種模擬店にクイズ大会、大抽選会などの催しがあった。今年は青空の下でステージ企画を行うことができ、横浜キャンパスに笑顔があふれた。



第24回緑風祭実行委員会 実行委員長  
片桐 隆希さん(保健医療学部理学療法学科3年)

## 緑風祭を終えて

今回の緑風祭は実行委員全員がそれまでに経験のない中で一から作った学祭でした。限られた時間で、色々断念したことや終わらなかったことがたくさんありましたが、開催してよかったと思えました。10月28・29日の2日間はとても笑顔に満ち溢れていてコロナによる制限を感じることがありませんでした。

また、来校者はほとんどが学部生であり、コロナによりなくなってしまった縦の繋がりを再び作っていけるように感じました。そして、一つのことを仲間たちと行うことでより一層仲が深まり横の繋がりが強くなっていると感じました。

今回の学祭は小規模開催となり、大々的な告知ができず多くの方にご来校いただくことができませんでした。今回の課題を来年の緑風祭に活かし、年に1度の思い出が残る楽しい恒例行事になるよう願っております。



第63回旗ヶ岡祭実行委員会 実行委員長 菊地 晃平さん(薬学部4年)

## 旗ヶ岡祭を終えて

今年度、第63回となる旗ヶ岡祭が10月14日、15日の2日間にわたり開催されました。今回は「開花」をテーマに活動を進めてまいりました。コロナによる制限も解除され、模擬店など様々な企画もコロナ前と同様に、大盛況のうちに終わることができました。

旗ヶ岡祭実行委員長として仕事をしていく中で、多くのスタッフをまとめること、組織全体に目を配ることの難しさを感じました。自分自身の至らぬ点も多々あり、壁にぶつかることもありました。先輩方や同期、後輩など多くの方に支えられ、やり遂げることができました。この活動を通して、私自身、皆さまのおかげで成長できたと思います。

今年はテーマに基づき、自分たちがまず楽しむことで、来場者の方の笑顔が咲くものになりたいという思いがあり、当日は、たくさんの笑顔が咲いた旗ヶ岡祭にすることができたと思います。

来年以降も皆さまに愛される昭和大学旗ヶ岡祭を目指していきますので、どうぞよろしくお願いたします。最後になりましたが、旗ヶ岡祭開催にあたりご協力いただいた全ての方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



# 「異国での学び、医療者の姿勢」

昭和大学は国際的な視野を持った医療人の育成のため、国際交流プログラム・短期海外研修の企画・実施に力を入れており、毎年世界各国の大学や医療施設に学生を送り出している。今年度は、ポートランド州立大学(米国)とのサマープログラムに各学部の1年生27名、ワライラック大学(タイ)に保健医療学部2~4年生14名、オックスフォード大学(英国)のMedicine in Oxford Two Week Programmeに各学部の2~4年生7名、UCLA(米国)のSummer Sessionsに医学部2年生1名、合計49名の学生が参加した。各研修に参加した学生の代表に、研修を振り返ってもらった。



## UCLA Summer Sessions

# Los Angeles, California, USA



医学部2年  
村田 佳織

### 様々な方々と交流できた研修

今回はUCLA Summer Sessionsに参加させて頂きました。

現地では、大学の寮に入り、平日は授業を受け、週末はロスを観光したりルームメイトと大学の図書館で勉強したりと充実した毎日を過ごしました。また、本学

卒業生で現在UCLAの神経放射線科教授をされているSalomon先生にUCLAの病院を案内して頂き、日本の病院との違いを目の当たりにしました。

日々優秀な海外の学生と共に学び、互いの意見や価値観を共有しました。学生のうちに様々な背景を持つ方々と交流できたことがこのプログラムの最大の魅力だったと思います。



# Portland, Oregon, USA

## PSUサマープログラム



薬学部1年  
梅田 越里

### 初めての留学

初めての留学で不安もありましたが、参加してよかったです心から感じています。

私が特に印象に残っているのは、米国と日本の医療制度や教育内容の違いです。国際的な活躍に関心があるため、保険加入制度による影響や労働環境、国家試験の形式の違いを学んだり、実際にシミュレーションセンターや病院を訪ねてお話を伺ったりしたことは大きな収穫であったと感じています。また、留学を通して自分の単語力や文法力の乏しさを痛感したため、この経験を糧に英語の学習を続けていきたいと思っています。



医学部1年  
王 和真



### アメリカという国

世界最高の治療と研究を行う国、アメリカ。私は憧れていた。しかしこの研修で、憧れているだけではわからない負の一面をも見た。この国の技術はすごい。学生は皆やる気に溢れ、医療現場を高度に再現した、腕を磨くには最高の設備があった。医療の他、環境を意識した街づくりなどすごく進んでいた。しかし、その一方で街には沢山の希望を失ったホームレスもいた。最先端の技術と整った環境を格差社会の溝を埋めるためにもっと使うことができたより良い社会ができるのではと思った。



歯学部1年  
中川 理聡



### 強い誇りと強い向上心をもつ

OHSU (Oregon Health & Science University) との交流で『歯学を学ぶ者としての誇りと向上心』を得た。ディスカッションをしたOHSUの歯学生達は誇り高く向上心は最強。歯科医師を志したときのドキドキした気持ちを思い出し、強い刺激を受けた。歯科病院では学生自身が患者を集め無償で医療を提供し練習する、双方に利点がある興味深い取組みを見学。自分の成長を感じる、貴重な体験の多い2週間だった。



歯学部1年  
藤本 莉々



### アメリカの文化の素敵なおとこ

アメリカでは日常会話において見知らぬ人にも挨拶をすることがある。実際様々な場所でたくさんの人と話した。フランクに考え会話できることはアメリカの文化の素敵なおとこだと思う。この文化が診療の際にも生かされていると感じたことがある。それはシミュレーションセンターでみた医師と患者さんのやりとりだ。日常会話から始めることで患者さんがリラックスして診察を受けられる姿を見ることができた。この素敵なおとこを日本にも取り入れたい。





保健医療学部 理学療法学科4年  
北村愛理

### 多様に考える能力が身についた研修

タイの学生と共に自国の文化や医療の制度を発表し学び合うことで固定概念に囚われず、多様に考える能力を身につけた。理学療法の分野では、日本よりもタイの理学療法士数が少ないこと、開業権があること、タイマッサージや動物セラピーについても学習内容に含まれていることなどの違いを知った。これらの経験は日本で理学療法の教育を受ける私にとって働き方の多様性や理学療法に対する探究心に繋がり、残りわずかな学生生活の中で自分がどのように過ごしていくべきなのかを考える機会となった。タイの学生との素敵な出会いに感謝し、お互いに切磋琢磨して学習を続けていきたい。



保健医療学部 作業療法学科4年  
戸田成美

### 海外研修で感じた私の成長

本研修ではワライラック大学の学生とPBL<sup>※</sup>/TBL<sup>※</sup>を実践しました。チーム医療に関する理解や認識にズレがあり議論を進めることが難しかったです。チーム医療教育を国際レベルで実践するためには、前提としてディプロマ・ポリシーやコンピテンシーとの関連性をよく理解する時間を十分に設け、指導者とPBLのコンピテンシーを共有したうえでファシリテートする必要があると気づきました。研修によってモチベーションの向上とIPE<sup>※</sup>

における課題の再認識ができ、今後も国際的に作業療法を実践できる人になれる様努力し続けます。



※PBL=Problem-Based Learning (問題解決型学習)  
TBL=Team-Based Learning (チーム基盤型学習法)  
IPE=Interprofessional Education (専門連携教育)



保健医療学部 看護学科4年  
竹内菜々香

### 文化と癒し、国際的な視野を広げるタイでの研修

ワライラック大学研修では、病院見学や討議を行い、タイと日本の医療の違いを学んだ。

タイでは伝統医療としてタイマッサージが大切にされており、実際に体験して、心と体が癒された。この研修では、タイの学生と文化交流を行い、お互いの文化を知り合える楽しさが魅力である。研修中、英語での会話に難しさを感じたが、諦めずに思いを伝え合い、前向きに行動する力が身についた。タイの心温かい人々とともに壮大な自然や景色の中で過ごす日々は、忘れられない時間となった。研修を通して国際的な視点が広がり、医療者として、英語と日本の医療について学修を深めていきたいと感じた。



# Oxford, UK

## Medicine in Oxford Two Week Programme



歯学部3年  
小林 稜

### 研修を終えて

私はオックスフォード大学研修に参加しました。とても楽しかったです。研修では、台湾のチャンゲン大学から来た学生とともに授業を受けました。授業は、医療に特化しており実技や知識を修得しました。また、日本と異なる医療システムを学びました。

台湾の学生とは同じフロアで生活をしました。一緒にお酒を飲み、Youtubeを見ました。夜遅くまで旅行計画を立て、休日にイギリスの観光名所を巡ったことは良い思い出となりました。



保健医療学部 看護学科4年  
村木 美織

### 2週間のオックスフォード研修に参加して

この夏、私はオックスフォード大学での医療プログラムに参加しました。イギリスの医療制度の基盤であるNHS<sup>※</sup>や現地で働く医師によるワクチンについての講義、健康と社会・政治・経済との関連についての検討会、理学療法士による事例検討演習など、非常に充実した内容ばかりでした。最後にはプレゼンテーションも行い、成長を実感できました。これまで学んできた日本の医療と、イギリスをはじめとする各国の医療の特徴や相違を初めて認識することができ、視野が一気に広がった忘れられない経験となりました。



※NHS=National Health Service (英国の国民保健サービスのこと)

# Nakhon Si Thammarat, Thailand

## ワライラック大学夏季研修



## 全力投球! 夏季スポーツ大会

第66回東日本医科学生総合体育大会と第55回全日本歯科学生総合体育大会が8月に実施された。全日本歯科学生総合体育大会はコロナウイルス感染症の影響で3年間開催が見送られてきたが、昭和大学が主管校となり4年ぶりに開催された。学生にとっても待ち望んだ大会であり、各競技とも熱戦が繰り広げられ大いに盛り上がった。

8位までの入賞結果は24ページに掲載



歯学部3年田中豪さん(男子バレーボール部門で優勝、大会MVPを獲得)のコメント

今大会は、出場者全員にとって初めてとなるオールデンタルでした。コロナ禍による制限を受けながらも部活に励んできた仲間や先輩方とこのような大きな大会に臨めたことを心から嬉しく思います。また、昭和大学は今回の主管校。大会を運営しながら試合をすることは初めてでしたが、大変貴重な経験になりました。そのなかで得られた“優勝”は本当に本当に嬉しかったです。

試合中、苦しい展開もありましたが何度も仲間たちに助けられ、改めてバレーボールにおけるチームプレーの大切さを実感することができました。今回の勝利は部員や女子部や先生方の応援、家族のサポート全てに支えられて掴んだ優勝だと思うので、まわりへの感謝を忘れずにこの経験を今後の部活動にも活かしていけたらと思います。





# Press Release

昭和大学では最新の研究結果を外部(マスメディア)に発信しています。  
ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介しします。

## 小児用シロップが0.5ml単位で簡単に計量できる 「シロップぴったりシロピィ」発売 乳幼児のシロップ投薬が素早く正確に



昭和大学(学長:久光 正)と日本山村硝子株式会社(代表取締役社長執行役員:山村 幸治)は共同で、「シロップぴったりシロピィ」を開発した。これは、水薬(シロップ)を正確かつ簡単に計量できる新たな計量器具。一般的な樹脂製の投薬瓶に装着可能で1ml、1.5ml、2ml、2.5ml、3mlの5段階の計量ができ、また、洗って何度も使える。これにより、乳幼児への水薬(シロップ)投薬を素早く正確に行うことができる。

両者の共同開発は、2020年度「昭和大学臨床ニーズマッチング会」において、福地本晴美教授(保健医療学部看護学科)が小児用シロップの内服スポイトのニーズについて発表したことがきっかけ。その後、マッチング会を共催した東京都医工連携HUB機構の紹介で、日本山村硝子株式会社との共同研究が2022年3月よりスタートした。

### ■開発の背景

乳幼児にシロップを投薬する際、正確に計量する必要がある。しかし、処方箋の指示通りに計量しても、最後に薬の過不足が生じることがあった。

また、正確に計量するには、計量カップに注入した液体の液面に目の高さを合わせて計量するため、計量誤差が発生しやすく、微量のシロップを計量することは難しい状況だった。

そこで、シロップを正確かつ簡単に計量が出来る計量器具の開発に取り組んだ。

### ■新規開発製品「シロップぴったりシロピィ」の特徴

本計量器具は、まず、シロップ容器にノズルを装着する。このノズルに設けた柱部を、軽量カップに設けた必要容量の階段部に合わせることで、計量カップ底面とノズル先端の距離が一定に維持されるようになっている。また、余分に押し出された場合には、容器の復元力でノズルの先端まで吸引されるため、あわせた容量で正確に計量できる構成になっている。

1ml、1.5ml、2ml、2.5ml、3mlの5段階の計量ができる。

### ■開発者

日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニー…ファーマキット事業グループ 岡部泰幸、荒木謙一郎、千葉隆宏  
昭和大学…福地本晴美(保健医療学部看護学科 教授)、肥田典



1 (左から) 福地本晴美教授、肥田典子准教授  
2 使用方法の実演(ボトルの下部に装着されているのが「シロップぴったりシロピィ」) 3 シロップぴったりシロピィの特徴

子(薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門 准教授)、三邊武彦(統括研究推進センター センター長)、諸星北人(医学部衛生学公衆衛生学講座 講師)、田中克巳(薬学部病院薬剤学講座 教授)、下恵子(保健医療学部看護学科 講師)、櫻井美里(保健医療学部看護学科 講師)

### 販売にご興味のある方はご連絡ください

商品完成まで、約2年かかりましたが、手早く簡単に正確な量を計量できるよう改良を重ね、ようやく販売まで至りました。「シロピィ」の精度確認では、昭和大学江東豊洲病院の看護師・薬剤師の皆さんにご協力いただき、ありがとうございました。今後はより多くの方に使用していただけるよう、販売促進にも力を入れ、実演ができるよう準備しています。手に取って試してみたいという方は、どうぞお気軽にご連絡ください。(福地本晴美)

紹介動画 (YouTube)  
<https://www.youtube.com/watch?v=sICVlbwH7S0>



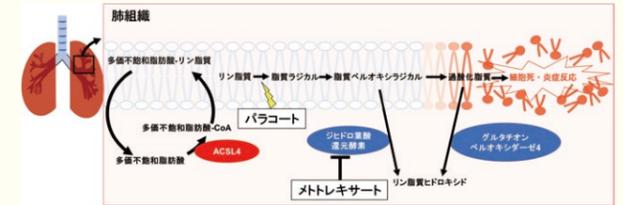
リリース時タイトル/昭和大学と日本山村硝子株式会社の共同開発による「シロップぴったりシロピィ」が発売 -- 乳幼児などの小児用水薬(シロップ)を正確に素早く計量できる器具

本件に関する問い合わせ先/昭和大学 保健医療学部 看護学科 教授 福地本 晴美(ふくちもと はるみ) E-mail: fukutimoto@cmed.showa-u.ac.jp/昭和大学 薬学部 臨床薬学講座 臨床研究開発学部門 准教授 肥田 典子(ひだのりこ) E-mail: n.hida@med.showa-u.ac.jp/日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニー ファーマキット事業グループ 岡部 泰幸 TEL:03-3349-7252 E-mail: pharmakit@yamamura.co.jp

## 肺障害を引き起こす化学物質の解毒や 医薬品の副作用軽減に期待 国際学術誌Redox Biologyに掲載される



昭和大学(東京都品川区/学長:久光正)大学院生の冨塚祐希さん(薬学研究科衛生薬学分野4年)、桑田浩准教授(薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門)、原俊太郎教授(同)を中心とする研究グループは、農薬のバラコートや医薬品のメトトレキサートといった化学物質が肺障害を引き起こす分子機構を解明し、国際学術誌である『Redox Biology』オンライン版に掲載された。本研究成果は、肺障害を引き起こす化学物質の解毒や医薬品の副作用軽減に応用できる可能性がある。



研究概要を示したイラスト

農薬のバラコート<sup>(※1)</sup>や医薬品のメトトレキサート<sup>(※2)</sup>は、肺細胞の壊死や肺の線維化といった肺障害を引き起こすことが知られているが、障害に至る詳細な分子機構は明らかになっていなかった。本研究では、これらいずれの化学物質による肺障害発現においても、長鎖アシルCoA合成酵素(ACSL)4により制御される膜リン脂質の過酸化が重要な役割を果たしていることを明らかにした。

ACSL4は、細胞膜の主成分であるリン脂質に、アラキドン酸などの多価不飽和脂肪酸<sup>(※3)</sup>を取り込む際に重要な酵素である(関連文献1、2)。多価不飽和脂肪酸は、細胞のエネルギー源、あるいは細胞間で情報を伝達するメディエーターとして機能する一方で、化学的に不安定であり、活性酸素によって容易に過酸化脂質へと酸化される。

本研究では、まずACSL4の遺伝子欠損マウスを用い、肺組織の膜リン脂質組成を解析した。その結果、ACSL4欠損マウスでは野生型マウスと比較して、過酸化を受けやすい多価不飽和脂肪酸を含有するホスファチジルコリンやホスファチジルエタノールアミンなどのリン脂質が減少することが明らかになった。次に、各々のマウスにバラコートを投与したところ、ACSL4欠損マウスでは肺の炎症反応が軽減され、生存率が大幅に改善されることが示された。同様にメトトレキサートを投与したときも、ACSL4欠損マウスにおいて肺の線維化が顕著に抑制された。さらに詳しく解析したところ、バラコートやメトトレキサート投与時に野生型マウスの肺で過酸化脂質の生成が認められたが、ACSL4欠損マウスではその生成が抑制されることを見出した。

ACSL4遺伝子の欠損により肺の細胞膜リン脂質に含まれる多価不飽和脂肪酸が減少することで、バラコートやメトトレキサート由来の活性酸素によって生じる肺毒性が顕著に軽減することが示唆された。本研究成果は、バラコートなど肺毒性を示す化学物質に対する解毒法の開発に加え、メトトレキサートをはじめ肺における副作用が問題となっているさまざまな医薬品の副作用軽減法の確立に役立つものと期待される。

リリース時タイトル/昭和大学の研究グループが化学物質による肺障害の分子機構を解明 -- 肺障害を引き起こす化学物質の解毒や医薬品の副作用軽減に期待

### 用語解説/

※1 バラコート: 除草剤。選択的に肺に取り込まれやすく、致死率が非常に高いため、散布中の事故や自殺目的での使用が社会問題となっている。

毒物及び劇物取締法において、毒物に指定されている。

※2 メトトレキサート: 抗リウマチ薬として世界的に最も使用されているほか、抗がん薬としても用いられる薬剤。副作用として、間質性肺炎が問題となっている。

※3 多価不飽和脂肪酸: アラキドン酸やエイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)など、分子の中に炭素-炭素二重結合を2つ以上もつ脂肪酸。二重結合をもたないステアリン酸やパルミチン酸に比べて、酸化されやすく、不安定である。

掲載誌/Redox Biology (impact factor: 11.4)

論文名/Gene deletion of long-chain acyl-CoA synthetase 4 attenuates xenobiotic chemical-induced lung injury via the suppression of lipid peroxidation (邦題: 長鎖アシルCoA合成酵素4の遺伝子欠損は過酸化脂質生成の抑制を介して化学物質による肺障害を軽減する)

著者/Yuki Tomitsuka, Hiroki Imaeda, Haruka Ito, Isaki Asou, Masayuki Ohbayashi, Fumihiko Ishikawa, Hiroshi Kuwata, Shuntaro Hara (冨塚祐希、今枝弘輝、伊藤通香、麻生武希、大林真幸、石川文博、桑田浩、原俊太郎)

掲載日時/2023年8月12日

DOI/10.1016/j.redox.2023.102850

### 関連文献/

- 1) Kuwata H et al. (2019) Biochim Biophys Acta 1864: 1606-18
- 2) Kuwata H et al. (2014) Biochim Biophys Acta 1841: 44-53

本件に関する問い合わせ先/昭和大学 薬学部 社会健康薬学講座 衛生薬学部門 教授 原俊太郎(はらしゅんたろう) TEL: 03-3784-8196 E-mail: haras@pharm.showa-u.ac.jp

お気軽にご相談を!!

- ◆ 万が一のための保障準備
- ◆ 住宅ローン・資産運用 など

お問い合わせ・ご予約は  
三井住友銀行 旗ノ台支店  
東京都品川区旗の台1-4-15  
TEL. 03-3785-3012

SMBC

# 日本初！HPVワクチンの子宮頸がん予防効果を確認 ワクチン接種促進につながるインパクトの高い研究成果



**昭**和大学医学部産婦人科学講座（東京都品川区／学長：久光正、講座主任：関沢明彦）の小貫麻美子講師と松本光司教授らの研究グループは、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの子宮頸がん予防効果をわが国で初めて報告した。一般公開されている全国がん登録データと日本産科婦人科学会の腫瘍登録データを年齢層別に統計解析し、20代女性でのみ、子宮頸がん罹患が2011年以降有意に減少していることがわかった。さらに、HPVワクチンが予防できるHPV16型とHPV18型の検出率が20代の子宮頸がんでは2017年以降減少していることを明らかにした。本研究成果は、2023年9月8日（米国東部標準時間）に国際科学誌『Cancer Science』オンライン版に掲載された。

## ■背景

子宮頸がんは、わが国では年間約1万人が罹患し、約2,800人が死亡するなど、患者数・死亡者数とも近年漸増傾向にある。子宮頸がんやその前がん病変は発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）<sup>(※1)</sup>の持続感染によって発症することが知られている。HPVは200タイプ（型）以上に分類されているが、このなかで主に13～14タイプが子宮頸がんの発症に関与している。子宮頸がんの約60%はHPV16型によって、約10%はHPV18型によって起こることがわかっている。

現在、日本国内で使用できるHPVワクチン<sup>(※2)</sup>は、感染を予防することができるHPVの種類によって、2価ワクチン（サーバリックス：2009年10月承認）、4価ワクチン（ガーダシル：2011年6月承認）、9価ワクチン（シルガード9：2020年7月承認）の3種類がある。9価ワクチンが定期接種に導入されたのは最近（2023年4月）であるため、現在ワクチンの効果を確認できるのは2価ワクチンと4価ワクチンとなる。この2つのワクチンは性交開始前の女性に接種した場合にはHPV16型やHPV18型の感染をほぼ100%予防することができる。

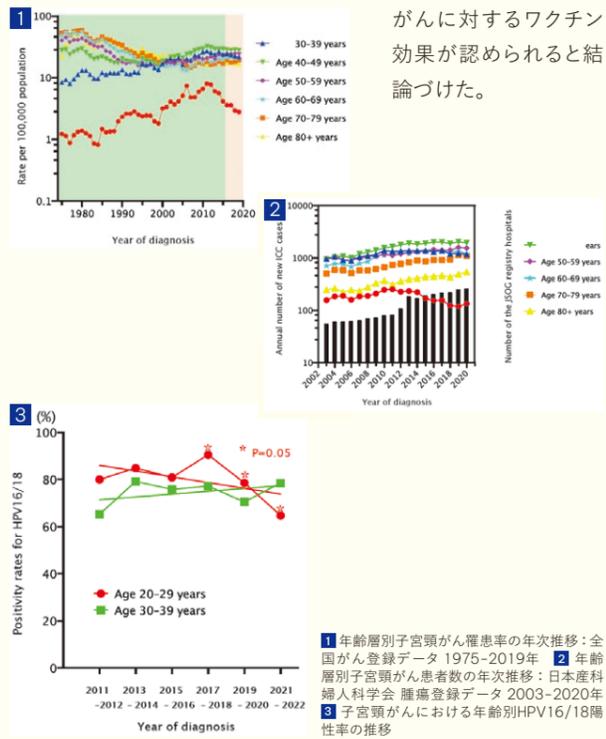
すでに海外では、国家接種プログラムによる子宮頸がん予防効果が2020年以降スウェーデン・英国・デンマークで報告されている。一方、わが国では2010年11月に公費助成によるHPVワクチン接種プログラムがスタートし、2013年4月から定期接種に組み込まれたが、副反応報告が相次いだことにより2013年6月から積極的な接種勧奨が差し控えられた。このため、HPVワクチン接種率はそれまでの約70%からほぼ0%にまで低下した。2022年4月より定期接種の積極的接種勧奨が再開されたが、約9年間の接種勧奨差し控えの影響は大きく、接種率は未だ回復していない。日本では接種勧奨中止となる2013年6月までに接種した、接種率の高い世代（1994～1999年生まれ）を中心に前がん病変に対する予防効果が報告されているが、これまでに子宮頸がんに対する予防効果の報告はなかった。

## ■成果

今回、研究グループは一般公開されている全国がん登録データと日本産科婦人科学会の腫瘍登録データを年齢層別に統計解析

したところ、20代女性でのみ、子宮頸がん罹患がそれまでの増加傾向から一転して、2011年以降は有意に減少していることがわかった（図1、図2）。これは、両方のがん登録データで一致している。しかしながら、これらのがん登録データはHPVワクチン接種歴と結びつけられていないため、20代での子宮頸がん罹患の減少は子宮頸がん検診による効果や性行動の変化など、別の要因であることも考えられる。

ワクチン特異的な予防効果を検証するため、本研究グループでは最近約10年間にわたって全国24施設で毎年新規に診断された40歳未満の若年子宮頸がんのなかで、ワクチンでの予防が可能なHPV16/18型陽性がんの割合をモニターしてきた。子宮頸がんのHPV16/18型陽性率の年次推移を見ると、20代でのみ2017年以降で減少していることを明らかにした（図3）。以上の結果から、わが国でも子宮頸がんに対するワクチン効果が認められると結論づけた。



## ■展望

近年漸増傾向にあるとされてきた子宮頸がんが、20代でのみ減少に転じていることが明らかになった。副反応問題により約9年間も積極的接種勧奨が中止されていたHPVワクチンの子宮頸がん予防効果がわが国で初めて確認できたことは、社会的インパクトの高い研究成果である。本研究の成果が広く知られることによって、今後日本でもHPVワクチン接種が促進され、子宮頸がん予防推進の助けになることが期待される。

**リリース時タイトル**／昭和大学などの研究グループが、日本で初めてHPVワクチンの子宮頸がん予防効果を報告 - HPVワクチン接種の促進、子宮頸がん予防推進に期待 -

## 用語解説

- ※1 HPV（ヒトパピローマウイルス）：パピローマウイルス科に属する。正二十面体のキャプシドに包まれた小型（直径50-60nm）のウイルスで、ゲノムは約8,000塩基対の環状二本鎖DNAである。現在では200タイプ以上に分類されているが、皮膚に感染し良性のイボの原因となるもの（1、2型等）、粘膜に感染して尖圭コンジローマ（外陰部の乳頭腫）の原因になるもの（6、11型）や子宮頸がんの原因になるもの（16、18、31、33、45、52、58型等）など、HPVの型によって感染部位と生じる疾患が異なる。子宮頸部に感染するHPVの感染経路は性的接触によるが、HPVはごくありふれたウイルスで、性交経験がある女性のほとんどはHPVに感染すると考えられている。HPV感染の多くは不顕性感染で免疫によって排除されるが、一部の女性で持続感染が生じると前がん病変を経由して子宮頸がんを発症する。HPVに感染してから子宮頸がんに進行するまでの期間は、数年～数十年と考えられている。
- ※2 HPVワクチン：現在、日本国内で使用できるHPVワクチンには2価ワクチン（サーバリックス：2009年10月承認）、4価ワクチン（ガーダシル：2011年6月承認）、9価ワクチン（シルガード9：2020年7月承認）の3種類がある。2価ワクチンは、子宮頸がんからの検出率が最も高いHPV16型とHPV18型の感染を予防することができ、4価ワクチンはHPV16/18型に加えて尖圭コンジローマの原因となるHPV6/11型の感染も予防できる。9価ワクチンはさらに、子宮頸がんの原因となるHPV31/33/45/52/58型の5つのタイプの感染も予防でき、2023年4月より定期接種に導入された。日本では公費助成による接種プログラム（12-16歳女子が対象）は2010年11月よりスタートしたが、副反応問題により2013年6月から2022年3月まで約9年間積極的な接種勧奨が差し控えられていた経緯がある。接種勧奨中止前に接種した世代（“ワクチン世代”：1994-1999年生まれ）では接種率は約70%とされているが、それ以降の世代では接種率が1%以下にまで急落した。接種率が高い“ワクチン世代”は、現在24-29歳になっている。なお、HPVワクチンは、強力な感染予防効果はあるが、既感染に対する治療効果はない。HPVは性交にて感染するウイルスであるので、性交開始前に接種することが重要である。

※詳細は下記の論文掲載URLより参照。

掲載誌／Cancer Science

**どなたでも様々な用途で  
ご利用いただけます。** 中原街道沿い、東病院の向かい

計600席、学会・講演会・式典・コンサートに！  
**上條ホール**

ケータリングで立食500名様まで対応可能  
**バンケットルーム・富士桜**

Web会議やWeb講演会にも最適！  
会議用機材や配信サポートもご相談ください  
**貸会議室**（約20㎡[定員4名]、約503㎡[定員288名]の8室）

**昭和大学 上條記念館**  
〒142-0064 東京都品川区旗の台1丁目1番地20  
TEL 03-3784-8030（平日9時～17時）  
Mail kinenkan@ofc.showa-u.ac.jp  
https://90th-showa.jp/kamijo\_memorial\_hall/

論文名／HPV vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study

DOI/10.1111/cas.15943

掲載日／2023年9月8日（米国東部標準時間）

著者／Mamiko Onuki, Fumiaki Takahashi, Takashi Iwata, Hiroshi Nakazawa, Hideaki Yahata, Hiroyuki Kanoo, Koji Horie, Katsuyuki Konnai, Ai Nio, Kazuhiro Takehara, Shoji Kamiura, Naotake Tsuda, Yuji Takei, Shogo Shigeta, Noriomi Matsumura, Hiroyuki Yoshida, Takeshi Motohara, Hiroyuki Yamazaki, Keiichiro Nakamura, Junzo Hamanishi, Nobutaka Tasaka, Mitsuya Ishikawa, Yasuyuki Hirashima, Wataru Kudaka, Mayuyo Mori-Uchino, Iwao Kukimoto, Takuma Fujii, Yoh Watanabe, Kiichiro Noda, Hiroyuki Yoshikawa, Nobuo Yaegashi, Koji Matsumoto for the MINT Study Group

掲載URL（オープンアクセス）／https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/cas.15943

## 研究支援

- 本研究は日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受けて行われました。
- ・事業名：新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
- ・研究開発課題名：思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究
- ・研究代表者：昭和大学 松本光司
- ・研究事務局：昭和大学 小貫麻美子
- ・研究分担者：北海道大学 渡利英道、岩手医科大学 高橋史朗、東北大学 島田宗昭、自治医科大学 藤原寛行、筑波大学 佐藤豊実、埼玉医科大学国際医療センター 吉田裕之、東京大学 森蘭代、慶應義塾大学 岩田卓、京都大学 濱西潤三、近畿大学 松村謙臣、岡山大学 中村圭一郎、九州大学 矢幡秀昭、久留米大学 津田尚武、熊本大学 本原剛志、琉球大学 久高亘、埼玉県立がんセンター 堀江弘二、国立がん研究センター中央病院 石川光也、がん研究会 有明病院 金尾祐之、神奈川県立がんセンター 佐治晴哉、静岡県立がんセンター 平嶋泰之、大阪国際がんセンター 上浦祥司、兵庫県立がんセンター 山口聡、四国がんセンター 竹原和宏、九州がんセンター 岡留雅夫、国立感染症研究所 柘元 元蔵

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 医学部 産婦人科学講座 教授 松本 光司  
TEL：03-3784-8551 E-mail：matsumok@med.showa-u.ac.jp

# 日本調剤

**全国に広がる、日本調剤のネットワーク。**

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、  
全国 47 都道府県で 700 以上の調剤薬局を展開している企業です。

## 創立100周年記念事業募金 ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### お問い合わせ

総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8387

FAX：03-3784-8012



2023.9.3

## 昭和大学病院・附属東病院で 地域との連携を高める防災訓練を実施

9月3日に、昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院において防災訓練を実施した。本訓練は、東京都より指定されている災害拠点病院としての役割（災害発生時に24時間体制で被災した傷病者を受け入れる役割など）を担うべく、災害時の初動等に重点をおいて実施されているもの。震度5強の地震が発生したことを想定して行われた。

病院長が本部長となり、災害対策本部が設置され、院内外の情報収集や模擬患者の初療対応などの訓練を実施した。

昭和大学病院のみならず、昭和大学法人部門・品川区・東京都水道局との連携訓練や、旗の台一丁目町会・西中延二丁目町会・荏原消防署・荏原医師会の方々にもご参加いただくなど、多くの方々にご協力いただき、有意義な訓練を実施することができた。



1 訓練の様子（本部活動） 2 訓練の様子（トリアージ活動） 3 訓練の様子（トリアージ活動）

また今回は、地域との連携を強めることを目的に、当院の取り組みを院外へ発信するため、品川ケーブルテレビによる取材も行われた。

今後も、災害拠点病院の役割を果たすべく、万に備えて万全の態勢を整備していく。

昭和大学病院 東病院

2023.9.9~10

## 理事長、学長、学校長、病院長のほか学生や職員も参加 旗の台一丁目町会祭禮

9月9日・10日の両日、旗の台一丁目町会の祭禮が開催され、本学から小口勝司理事長、久光正学長、小川良雄看護専門学校長、相良博典昭和大学病院長、その他多くの学生や職員が参加した。

神輿を担いだ学生達は、大きな掛け声とともに町会の皆さんと旗の台キャンパス周囲の町内を練り歩いた。

この祭禮は、荏原町駅近くにある旗岡八幡神社で毎年9月の第2土曜・日曜に行われる例大祭に合わせて行われるもので、神社周辺の町会で一斉に神輿を担ぎ地域の安全を祈願する。



1 教育研修棟前にて 2 旗の台キャンパス中庭にて 3 上條記念館前にて

昭和大学病院 東病院

2023.9.21

## 32名が研究者として新たな門出を迎える 大学院秋季修了式

9月21日、令和5年度昭和大学大学院秋季修了式を上條記念館で挙行し、医学研究科11名、歯学研究科4名、薬学研究科3名、保健医療学研究科博士前期課程10名、同博士後期課程4名、合わせて32名が研究者としての門出を迎えた。

久光正学長は告辞において、「大学院での研究はこれまでに確立された医学・医療の知識や技術を基に新しい発見をし、広く世に知らせるという意義があります。授与された学位記はその証明です。これからも新たな発見を見出すための研究・研修を続け、後継の育成に努めていただきたいと思います。新しい次の一步を



1 学位記授与 2 式典の様子 3 式典の様子

踏み出し、大いに羽ばたいてください」と修了生のさらなる飛躍に期待を寄せた。

続いて、小口勝司理事長の祝辞、各研究科長からは挨拶とともに今後の研究等のあり方について講話があった。

そして、修了生代表による昭和大学宣言、校歌斉唱が行われ、閉式となった。

式典・行事 大学院

2023.9.28

## 白衣授与式での決意を胸に 医学部124名が臨床実習に臨む

9月28日、上條記念館で令和5年度医学部白衣授与式を挙行了。

同式は、臨床実習に臨むにあたり、白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に毎年実施している。

小風暁医学部長は告辞で、「新カリキュラムでのアクティブラーニング中心の学修を経てきた皆さんは、診療参加型臨床実習において知識を深め、技術を高め、クリニカルクラークシプトレニー（学生医）として、医療人としてふさわしい態度を培ってください。自身の遠慮や躊躇による制約を受けることなく、能動的に実習に臨み、至誠一貫を体現できる医師へと成長されますことを大いに期待しています」と述べた。

その後、4年生124名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。学生たちは真新しい白衣に袖を通し、これから始まる臨床実習への決意を新たにした。

列席者からの祝辞では、小口勝司理事長をはじめ久光正学長、荒川千春統括看護部長から激励の言葉があった。相良博典昭和大学病院長からは、「法改正により臨床実習の場での医学生の医療行為が許されるようになります。非常に画期的な改革である反面、より責任を伴って臨まなければならないということです。課題に対する答えはひとつではなく、多職種との協力も不可欠です。



1 白衣授与 2 告辞：小風暁医学部長 3 昭和大学宣言 4 白衣に身を包み決意を新たに 5 閉式後の様子 6 記念撮影

式典・行事 医学部

多くの重症患者さんを受け入れている昭和大学附属病院で、患者さんとの関わりを体験し、経験値を上げていってほしいと思います。ぜひ一緒に頑張っていきましょう」と激励の祝辞が寄せられた。

続いて「先輩からの言葉」と題して臨床研修医代表の榎本達仁さんから患者さんとの関わり方など、臨床実習での心得などについて講話があり、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

最後に代表者による昭和大学宣言を行い、医療人としての誓いを新たにし、閉式となった。

これから卒業まで、学生は本学附属病院および関連実習施設における実習課程で研鑽を重ねていく。

2023.10.1

## 110名が入学、39の講座で学びを深める リカレントカレッジ秋期入学式・開講式

10月1日、上條記念館にて令和5年度秋期昭和大学リカレントカレッジ入学式・開講式を挙行し、110名が入学した。

開式に先立ち、本学の包括連携協定校である洗足学園音楽大学のチェリスト・荒庸子教授の演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

小川良雄プリンシパルは式辞で「秋期プログラムでは、本学の特長を生かし、医学医療を中心に様々な分野で39講座を開講します。広い学びを通して、社会人の皆さんの学び直しの場となり、また新たな価値を見出し、さらに新たな文化の発信となればと思っています。講師とともに良い学習ができ、実りある講座になることを願っています」と述べた。

また学校法人小口勝司理事長より「いろいろな体験・経験をして



1 洗足学園音楽大学・荒庸子教授による演奏 2 式辞：小川良雄プリンシパル 3 祝辞：小口勝司理事長 4 講師紹介

式典・行事 リカレントカレッジ 卒後教育・生涯研修

有意な心の変化があれば学習したということを実感できます。リカレントカレッジに参加し、心豊かになってもらえれば嬉しいです。皆さんの成長を願っています」との祝辞が寄せられた。

受講生は今後、多彩なプログラムを受講し、学びを深めていく。

## 21名が研究者としてスタートを切る 大学院秋季入学式

10月2日、上條記念館にて令和5年度昭和大学大学院秋季入学式を挙行了た。

医学研究科5名、歯学研究科1名、薬学研究科7名、保健医療学研究科博士前期課程8名が、研究者としてのスタートを切った。

久光正学長は告辞で「大学院は、新事実を見つけ出し、世の中に周知するという役割があります。これから様々な分野で研究を行うなかで、新しい発見があると思います。それを論文として成果を発表してもらいたいです。皆さんの今後を期待しています」と述べた。

続いて、小口勝司理事長の祝辞、各研究科長からは挨拶とともに研究の進め方等についてのアドバイスがあった。



1 式典の様子 2 告辞：久光正学長  
3 管弦楽団の演奏

そして、昭和大学宣言の唱和、校歌斉唱が行われ、閉式となった。

入学式終了後は、研究科ごとにオリエンテーションを実施した。

## 2019年以降の対面開催で盛況を博す 父兄会秋季部会に合計約1,000名が出席

10月7日・21日、父兄会秋季部会を各キャンパスで開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での開催は4年ぶりとなった。

**富士吉田キャンパス** 10月7日、父兄会富士吉田秋季部会を富士吉田キャンパスで開催し、1年次学生の保護者492名が出席した。

1号館第一講堂で行われた全体会議では、橋本幹生父兄会長、続いて小口勝司理事長、久光正学長、倉田知光富士吉田教育部長、小倉浩教育委員長による挨拶、指導担任の紹介が行われた。

全体会議終了後、保護者と指導担任による面談がSGSセンターで行われた。指導担任は、学生の寮生活の様子や学習の成果などについて、保護者へ説明した。

食堂で学生たちと同じメニューを食べたり、キャンパス内の足湯を体験したり、学生たちの生活の一部を保護者に体験していただいた。

懇親会にも多くの保護者にご参加いただき、指導担任を含め参加者間の親睦を深めていただいた。

**旗の台キャンパス** 10月21日、父兄会秋季部会を旗の台キャンパスで開催し、医学部・歯学部・薬学部の学生の保護者約400名が出席した。

秋季部会は学部別に実施し、各学部部会が開かれ、学部長、学生部長、教育委員長等のあいさつの後、指導担任と保護者との個別面談が行われた。

その後、上條記念館地下1階富士桜（バンケットルーム）において懇親会が開催され、教育職員も交えて参加者間の親睦を深めていただいた。

**横浜キャンパス** 10月21日、2023年度昭和大学父兄会秋季部会を横浜キャンパスで開催し、保健医療学部の学生の保護者約100名が出席した。

はじめに全学科合同での保健医療学部部会が開かれ、学部長、学生部長、教育委員長の挨拶があった。

次に各学科に分かれての学科別部会が開かれ、続けて指導担任と保護者との個別面談が行われた。

その後、地下1階レストランにおいて懇親会が開催され、教育職員も交えて参加者間の親睦を深めていただいた。



富士吉田 1 挨拶：橋本幹生父兄会長 2 挨拶：倉田知光富士吉田教育部長 3 会場の様子 4 懇親会の様子 旗の台 5 挨拶：小風院医学部部長 6 指導担任との個別面談会場 7 乾杯の発声：上條由美副理事長 8 懇親会の様子 横浜 9 挨拶：鈴木久義保健医療学部長 10 指導担任との個別面談会場

## 120柱の霊位が祀られ祭文を捧げる 令和5年度解剖慰霊祭

10月17日、令和5年度解剖慰霊祭を上條記念館にてしめやかに執り行った。

解剖慰霊祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典。

令和4年4月1日から令和5年3月31日までにご献体いただいた120柱の霊位が祀られ、参列者からご尊霊に対し、黙禱が捧げられた。その後、参列者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

式典では、根本哲生教授（横浜市北部病院臨床病理診断科）が「医学教育と医療の発展のために解剖を承諾され、御遺体を供して崇高なご意志を示された諸霊に感謝いたします。今日の医学・歯学・薬学及び保健医療学の教育がこうした方々の善意に支えられていることをわれわれ医療従事者は忘れてはなりません。そして学生諸君は、将来、医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び理学・作業療法士として、医療発展のために真摯な努力を怠ってはなりません。今後も医学、歯学、薬学、保健医療学の向上と社会福祉に寄与するために努力を重ねることをお誓い申し上げます」と祭文を捧げた。

続いて、医学部と歯学部の学生代表が弔辞を述べた。歯学部



1 祭文を捧げる根本哲生教授 2 献花の様子 3 黙禱を捧げる参列者一同

の学生は「近年、口腔内の疾患と全身の状態が密接に関係していることが研究され、歯科分野においても身体全体の構造や疾患について学ぶことがより重要となっています。多くが口腔内やその周辺に限局した治療や研究を行っていくことになる私達が、なぜ全身を扱う解剖実習を行わせていただくのか、一人ひとりがその意義を考え、実習を通して全身の知識を得ること、またその時に感じた厳粛な空気や自分自身の感情に向き合うことが非常に大切なのではないかと考えます。命の尊さや命と向き合う医師としての責任や自覚を体感する機会は他にありません。ひとえにご献体くださいました皆様のお力添えがあってこそだと感じております。皆様の崇高な思いを深く心に刻み、社会に寄与できる医療人になれるよう、より一層精進していきます」と誓った。

## お好み焼き摂取後にアナフィラキシーを呈した小児例で高評価 日本病院総合診療医学会学術総会で受賞

唐渡諒助教（医学部小児科学講座小児内科学部門／江東豊洲病院こどもセンター）が、第27回日本病院総合診療医学会学術総会（8月26日～27日：日本医科大学）にて最優秀症例論文賞を受賞した。同賞は、2022年に日本病院総合診療医学会雑誌に掲載された論文の中から最も優れた論文1件に授与される。唐渡

助教は、論文名「お好み焼き摂取後にアナフィラキシーを呈した3小児例」が高く評価され、同賞に選定された。

唐渡諒助教



## 電子レンジでの解凍による母乳成分変化を分析 日本母乳哺育学会学術集会で受賞

医学部5年の伊藤瑞穂さんが、第37回日本母乳哺育学会学術集会（9月16日～17日：JA共済ビルカンファレンスホール）にて優秀演題賞を受賞した。伊藤さんは、演題名「電子レンジ処理による母乳成分変化」が高く評価され、同賞に選定された。

冷凍母乳を電子レンジにて解凍することは分泌型IgA抗体やラクトフェリンなど生理活性物質のロスが大きいこと、温度ムラが大

きいことから禁忌とされてきた。本発表は、2種類の素材で電子レンジによる解凍を行い、温度のばらつきと生理活性物質の変化を検討し、条件や材質によって電子レンジは冷凍母乳の解凍に利用可能であることを報告したものの。

（左から）伊藤瑞穂さん、水野克己教授



## アベマシクリブ誘発性の下痢に対し 整腸剤の予防効果が乏しいことを解明

アベマシクリブは細胞周期を阻害する分子標的薬で、ホルモン受容体陽性HER2陰性の進行再発乳がんや早期乳がんに適応がある薬剤のこと。この薬剤を服用すると約9割の患者さんが下痢を経験することが知られており、QOLの低下の一因になるとも言える。これに対して整腸剤が汎用されている。

2019年12月から2020年12月に、西日本がん研究機構の支援を受け先端がん治療研究所が実施した、「アベマシクリブ誘発性下痢に対するピフィズ菌整腸剤の予防効果およびトリメブチンマレイン酸塩の治療効果を検討する非盲検無作為化第二相試験（MERMAID試験）」では、アベマシクリブを服用する53人の乳がん患者さんにおいて、整腸剤による下痢の予防効果を調べた。患者さんの症状日記により中等度以上の下痢発症割合を求

め、過去の治験での下痢の発生割合を基に予防効果を評価した。その結果、約半数以上の患者さんに中等度以上の下痢が認められ、整腸剤の予防効果は乏しいと判断された。

掲載誌／The Breast

論文名／Efficacy of probiotics and trimebutine maleate for abemaciclib-induced diarrhea: A randomized, open-label phase II trial (MERMAID, WJOG11318B)

著者／Hiroko Masuda, Yuko Tanabe, Hitomi Sakai, Koji Matsumoto, Akihiko Shimomura, Mihoko Doi, Yasuo Miyoshi, Masato Takahashi, Yasuaki Sagara, Shinya Tokunaga, Tsutomu Iwasa, Naoki Niikura, Kenichi Yoshimura, Toshimi Takano, Junji Tsurutani

DOI／<https://doi.org/10.1016/j.breast.2023.07.003>

昭和大学先端がん治療研究所のメンバー



## 全国でも注目される 「口から始めるフレイル対策、口腔機能管理」を研究 日本老年歯科医学会で受賞

畑中幸子助教（歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門）が、日本老年歯科医学会第34回学術大会（6月16日～18日：パシフィコ横浜）にて、優秀奨励論文賞（ライオンアワード）を受賞した。同賞は老年歯科医学の進歩・発展を図り、優れた若手研究者を助成、育成するために設けられ、本会機関誌に掲載された優れた学術論文を発表した者に授与される。

【畑中幸子助教のコメント】

今回受賞させていただいた論文は「歯科外来通院高齢患者における舌口唇運動機能の管理効果」です。口から始めるフレイル対策として、口腔機能をいかに管理するかは、全国でも注目されるトピックの一つになっています。今回の受賞をとても嬉しく感じるとともに、今後も臨床に基づいた研究に邁進していきたいと考えております。

左から古屋純一教授、畑中幸子助教



口腔機能管理は、将来の低栄養・要介護のリスクを軽減すると言われており、とても重要です。今後も、「自分の口で、自分らしく、楽しく食べる、楽しく生きる」を実現できる歯科の部門として、臨床研究教育に尽力する所存です。

掲載誌／Gerodontology Volume39, Issue1

論文名／Impact of oral health guidance on the tongue-lip motor function of outpatients at a dental hospital

著者／Yukiko Hatanaka, Junichi Furuya, Yuji Sato, Yoshiki Uchida, Tokiko Osawa, Toshiharu Shichita, Hiroyuki Suzuki, Shunsuke Minakuchi

DOI／[10.1111/ger.12599](https://doi.org/10.1111/ger.12599)

URL／<https://doi.org/10.1111/ger.12599>

## ベンゾジアゼピン系薬剤の 長期使用に関する傾向を明白に 日本精神薬学会総会・学術集会で受賞

百賢二准教授（薬学部病院薬剤学講座）が第7回日本精神薬学会総会・学術集会（2023年9月16日～17日：岡山大学）で日本精神薬学賞を受賞した。百准教授は「本邦におけるベンゾジアゼピン系薬剤の長期使用に関するトレンド分析」の演題名で発表し、2012年以降、ベンゾジアゼピン系薬剤を長期投与されている患者の割合が低下していることを明らかにした点が高く評価され、同賞に選定された。



1 百賢二准教授 1 日本精神薬学賞

## 残胃癌に対する腹腔鏡下手術の有用性と手技の工夫を研究 日本消化器外科学会総会で優秀演題賞

石井美風助教（医学部外科学講座消化器一般外科学部門／昭和大学病院 消化器・一般外科 専攻医）が、第78回日本消化器外科学会総会（2023年7月12日～14日：函館市）の学部学生・メディカルスタッフ・初期研修医セッションにおいて、「術前3Dシミュレーションを活用した残胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討と手技の工夫」で優秀演題賞を受賞した。石井助教は、高度の技術を要する残胃癌に対する腹腔鏡下手術の有用性を検討し、その手技の工夫を報告した。

【石井美風助教のコメント】

この度、青木武士教授、山崎公靖准教授をはじめとする外科学講座消化器一般外科学部門の先生方のご指導を賜り、第78回日本消化器外科学会総会において優秀演題賞をいただくことができました。まだ学術活動に慣れず、抄録作成から発表スライド作成、プレゼンテーションの方法まで一から教えていただき、深く感謝申し上げます。今回、以前より当部門で導入してきた術前3DシミュレーションやICG蛍光法を残胃癌の腹腔鏡下手術に応用する

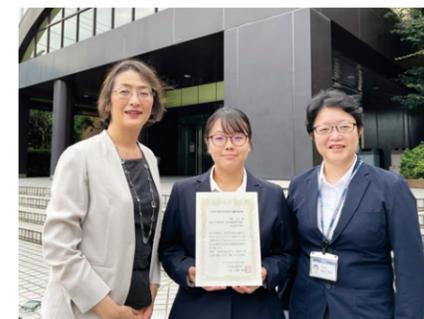
ことで、より安全で確実な手術が可能になることを報告し、評価いただくことができ大変嬉しく思います。今後とも患者さんに安全で安心な医療が提供できるよう日々の業務・学術活動に取り組んで参りたいと思います。駆け出しの消化器外科医である私がこのような荣誉ある賞をいただいたのは、諸先輩方のご指導、切磋琢磨し合える同期の存在、また私共の医療に同意くださった患者さんのお陰であると思います。今後も皆様のお力添えを頂きながら、この賞を誇りに一層精進して参ります。



左から青木武士教授、石井美風助教、山崎公靖准教授

## 一般用医薬品の外箱表示・添付文書のわかりやすさを分析 日本社会薬学会で学部学生優秀発表賞

薬学部6年の浅岡宝花さん（研究配属先：薬学部社会健康薬学講座社会薬学部）が、日本社会薬学会第41年会（2023年9月9日～10日：昭和大学 旗の台キャンパス）において、「一般用医薬品における、外箱表示・添付文書の理解しやすさ、行動しやすさの評価」のテーマで発表し、学部学生優秀発表賞を受賞した。同賞は、研究として十分に企画されかつ社会薬学的な視点が明確であることに加え、学生が研究の意味を理解しているか、理解度についても評価される賞で、厳正なる審査の結果、27審査対象演題中1演題（受賞率3.7%）に対して授与された。



（左から）赤川圭子講師、浅岡宝花さん、岸本桂子教授

## 社会福祉法人「ありのまま舎」 ありのまま自立大賞受賞

名称 ありのまま自立大賞

概要 社会福祉法人「ありのまま舎」が障害者の自立支援を促すことを目的として毎年表彰

評価内容 聴覚障害者として国内で初めて薬剤師免許を取得し、スポーツファーマシストとしてアンチドーピングに取り組む等の活躍



早瀬久美さん（前列中央）

**昭友商事株式会社**

昭和大の皆さまへ  
便利なサービス・商品を提供します！

昭和大富士吉田の天然水

昭和大オリジナルワイン

QUOカード・VJAギフトカードなど

イベント業務委託

ローソン&タリーズ

その他色々！

お気軽にお問い合わせください！ ☎ 3784-8280

## 消防隊員7名を招き、応急手当や一次救命処置を学ぶ 富士吉田キャンパスで普通救命講習会

8月29日、富士吉田キャンパスの1号館3階第一講堂にて、職員を対象に普通救命講習会を実施した。これは、本学と富士五湖消防本部との間において、地域社会の防災力発展に寄与するために締結された包括的連携協力に関する協定に基づき実施したもの。

本講習会は緊急事態に適切に対応し、同僚や学生の安全を確保できるようにすることを目的としている。当日は、富士五湖消防署の隊員7名を講師として招き、応急手当や一次救命処置を学んだ。

救命講習会では、BLS訓練人体モデルを使って、傷病者が目の前にいることを想定し、心肺蘇生法（CPR）、AED（自動体外式除細動器）の使用方法を学んだ。また、基本的な止血方法や



窒息時の対処方法などを学んだ。

今回の講習会を通じ、救命率を向上させるためには、救急車到着までの救命活動や初期対応が重要であるとの認識を深めた。

## 本学13番目の医学部間協定 タイのマヒドン大学 ラマティボディ病院医学部と協定締結

8月17日、マヒドン大学ラマティボディ病院医学部（タイ）と医学部間協定を締結した。本協定は、昭和大学にとって13番目の医学部間協定、タイの大学としては4校目となる。

昭和大学とマヒドン大学の間では、大学院留学生として本学医学部、薬学部で学んだ方々が橋渡し役となり、大学間協定の準備を進行している。2023年2月には、昭和大学より野部浩司教授（薬学部基礎医療薬学講座薬理化学部門）・板部洋之教授（薬学部基礎薬学講座生物化学部門）・泉美貴教授（医学部医学教育学講座）・橋本みゆき国際交流センター副センター長がマヒドン大学を訪問した。



1 (左から) 橋本国際交流センター副センター長、小風医学部長、宮崎国際交流センター長、泉医学部・医学研究科国際交流委員長 2 マヒドン大学ラマティボディ病院医学部長のProf. Piyamitr Sritara

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き次第、すみやかに学生・教育職員の相互交流を開始できるよう、大学間協定に先駆けて、マヒドン大学ラマティボディ病院医学部との協定を締結した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、調印式を対面で行うことは叶わなかったため、小風暁医学部長、宮崎隆国際交流センター長が署名した協定書を送付し、マヒドン大学ラマティボディ病院医学部長のProf. Piyamitr Sritaraに署名していただいた。

## ふるさと会総会を4年ぶりに対面で開催

10月13日、昭和大学ふるさと会総会を旗の台キャンパスの上條記念館 富士桜で開催し、ふるさと会会員を中心に職員、学生、大学役員ら約110名が出席した。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年を最後に開催が見送られてきたが、4年ぶりに対面での開催となった。

ふるさと会会長の久光正学長の式辞に続き、小口勝司理事長からの挨拶、そして、ふるさと会副会長の中村明弘薬学部長の乾杯で懇親会が始まった。

各活動地域挨拶では、17地域の代表による「ふるさと紹介」が行われ、ふるさと会の魅力を余すことなく説明し、会場は大いに盛り上がった。



1 懇親会の様子 2 式辞の様子 3 式辞の様子

各地域のふるさと会は、順次開催されます。開催の際には皆さまにご案内いたします。ふるさと会は昭和大学の職員・学生をはじめ同窓の方にも広く交流していただく親睦の場です。地域のふるさと会にもぜひお気軽にご参加ください。

[https://www.showa-u.ac.jp/about\\_us/org/furusato/](https://www.showa-u.ac.jp/about_us/org/furusato/)



## Database

令和5年度

## 科学研究費助成事業採択課題一覧

令和5年度の科学研究費助成事業の交付は全体で325件が採択され、総計で3億7,763万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■ 医学部：136件 1億7,025万円	■ 歯学部：89件 9,490万円	■ 薬学部：40件 4,694万円
■ 保健医療学部：32件 2,740万円	■ 富士吉田教育部：4件 250万円	■ 研究所等：24件 3,563万円

今号では、歯学部と薬学部の一覧を掲載する。

※所属・役職は令和5年5月交付時点

### 歯学部

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	口腔生化学	講師	矢野 文子	3,800,000	関節の恒常性を司る、滑膜と軟骨の連関制御機構の解明
	歯科補綴学/歯科補綴学部門	教授	馬場 一美	2,800,000	リポソームとIPS細胞バンクを基盤とした睡眠時ブラキシズム発症機序の解明
	口腔病態診断科学/口腔病理学部門	教授	美島 健二	4,500,000	エピジェネティック制御を介した唾液腺幹細胞における多分化能維持機構の解明
		講師	田中 準一	3,800,000	ヒトIPS細胞由来唾液腺オルガノイドと大量培養系を用いた新規唾液腺再生医療の構築
	歯学教育学	教授	坂井 信裕	300,000	歯と骨の恒常性維持における脂質代謝関連分子の機能解明
		教授	中村 史朗	1,100,000	摂食機能の発達におけるセロトニン神経系の役割の解明
	口腔生理学	客員教授	池田 啓子	1,300,000	Naポンプ神経疾患の症状発現トリガー物質、アスコルビン酸が神経系に及ぼす基盤解明
		講師	中山 希世美	1,100,000	遺伝子工学を用いた孤核核嚙下ニューロンの網羅的解析
		講師	望月 文子	1,300,000	セロトニンとGABAの相互関連による睡眠時ブラキシズムの発症機序の解明
	口腔生化学	准教授	山田 篤	1,200,000	BMP活性促進因子KCPの骨形成促進機能の解明と硬組織再建への応用
助教		笹 清人	800,000	ヒストンラクチル化による骨リモデリング制御機構の解明	
兼任講師		須澤 徹夫	700,000	歯原性細胞に依存しないIPS細胞によるエナメル芽細胞誘導と歯胚作成技法の創出	
口腔微生物学	助教	黒澤 実愛	1,000,000	口腔内細菌に対する唾液腺のB細胞恒常性維持メカニズムの解明	
	助教	深町 はるか	1,000,000	腸管粘液由来の糖利用競争力を介したクレブシエラ菌の腸内定着に及ぼす影響の解明	
口腔衛生学	講師	伊澤 光	1,600,000	光学印象採得データを用いた新たな個人識別法の開発	
	講師	石崎 晶子	800,000	低出生体重児に対する口腔周囲筋の筋強度を指標とした口腔機能発達支援方法の確立	
	講師	渡邊 賢礼	1,100,000	顎・舌の運動と筋量・筋質から咀嚼機能を評価する	
基盤研究(C)	講師	内海 明美	200,000	幼児期の食習慣が学齢期の口腔機能発達に及ぼす要因分析とスクリーニング方法の開発	
	講師	吉村 健太郎	1,100,000	ケトジェニックダイエットが骨格成長に及ぼす影響の解析	
口腔健康管理学/口腔機能リハビリテーション医学部門	准教授	伊原 良明	1,600,000	口腔機能による閉塞性睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング、筋機能訓練の効果の検討	
	教授	古屋 純一	2,200,000	要介護高齢者の舌機能低下を代償する有床義歯形態のデジタル技術を用いた解明	
口腔健康管理学/口腔機能管理学部門	兼任講師	七田 俊晴	1,200,000	口腔機能低下症の初期症状を早期発見するための「口腔機能年齢」早見表の確立	
	講師	茶谷 昌宏	900,000	鱈(ひれ)の骨周囲スペースを制御する未知細胞の同定と機能解明	
歯科薬理学	講師	唐川 亜希子	700,000	骨吸収抑制薬が歯根形成を抑制する分子メカニズムの解明	
	教授	山本 松男	700,000	多色細胞系譜追跡法を用いた歯肉接合上皮の細胞供給システムの解明と幹細胞の同定	
歯科保存学/歯周病学部門	助教	相澤 怜	1,200,000	歯肉接合上皮の歯周組織防御機構にCdc42が果たす役割の解明	
	教授(員外)	鈴木 規元	500,000	根尖病変の成立における抗RANKL抗体の骨吸収抑制機構の解明と臨床応用への期待	
歯科補綴学/顎関節症治療学部門	教授(員外)	菅沼 岳史	500,000	パラファンクションによる歯の接触頻度と咬合力が歯根膜感覚に及ぼす影響	

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	歯科補綴学/歯科補綴学部門	准教授	岩佐 文則	1,000,000	セリアジルコニアインプラントの軟組織接着に関する先進的研究
		准教授	田中 晋平	1,600,000	デジタル印象の精度向上補助デバイスの製品化に向けたin vivoにおける検証
		講師	安部 友佳	1,000,000	短縮歯列-第二大臼歯に対する固定性インプラント補綴の介入効果と治療選択要因の解明
		講師	高場 雅之	1,300,000	振動刺激型スプリントによる睡眠時ブラキシズム抑制効果の長期持続性の検討
		助教	三田 稔	1,500,000	機械学習を用いた口腔機能検査と口腔関連QoLの相関アルゴリズムの構築
	口腔外科学/顎顔面口腔外科学部門	助教	松本 貴志	1,100,000	高効率5-HT2Aレセプター発現IPS細胞の樹立と新規単離法の開発
		兼任講師	横山 紗和子	800,000	インプラント治療を基盤とした最適補綴装置選択のための診断補助システムの構築
		教授	代田 達夫	1,200,000	神経障害性疼痛の病態におけるTRPV1 Self-activation仮説の立証
		講師	佐藤 仁	600,000	神経障害性疼痛におけるアンギオテンシンII受容体の関与
		講師	椋代 義樹	400,000	口腔扁平上皮癌細胞における低酸素抵抗因子としてのスプラバシンの役割の検索
若手研究	歯科矯正学	教授	中納 治久	600,000	アライナー型矯正装置が発生する矯正力の生体力学的研究
		講師	芳賀 秀郷	2,100,000	超音波診断装置から得た口腔周囲筋性質に関連する不正咬合の機能的診断法の創出
	口腔病態診断科学/口腔病理学部門	講師	安原 理佳	1,000,000	軟骨分化過程における関節表層細胞のエピゲノム解析
		助教	行森 茜	900,000	Foxc1によるFgfr2発現機構の解明
	口腔病態診断科学/歯科放射線医学部門	教授	松田 幸子	700,000	AIを用いた口腔機能低下(オーラルフレイル)自動画像診断支援ソフトウェアの開発
		講師	佐藤 大輔	600,000	磁性アタッチメントを用いた非侵襲的新規インプラント安定度測定法の確立
	インプラント歯科学	助教	山口 菊江	900,000	予知性の高いサイナスリフトのプロトコルの確立
		講師	荻野 玲奈(田中)	400,000	単斜晶アパタイトの局所合成によるエナメル質初期う蝕再生療法
	小児成育歯科学	講師	杉山 智美	200,000	医療面接における客観的評価方法の開発-音響分析を用いた評価について-
		助教	新田 雅一	400,000	ジュニアアスリートへの新規素材を応用したスポーツマウスガードの開発
若手研究(B)	高齢者歯科学	名誉教授	佐藤 裕二	500,000	高齢者の口腔機能・食欲・体組成に着目した要介護へ至るフレイルサイクルの解明
	全身管理歯科学/歯科麻酔科学部門	客員教授	飯島 毅彦	600,000	血管透過性制御におけるマクロファージの機能解析
	全身管理歯科学/総合内科学部門	教授(員外)	木庭 新治	400,000	心大血管リハビリテーションによるHDL機能の改善と再発予防効果の解明
	口腔健康管理学/口腔機能リハビリテーション医学部門	兼任講師	石川 万里子	(※1) 0	精神疾患患者の窒息事故を予測するための診断プロトコルの開発
	歯学教育学	助教	鯨岡 聡子	1,400,000	唾液腺腫瘍における腫瘍性筋上皮細胞の新規マーカーの開発
	口腔解剖学	助教	井上 知	1,000,000	長骨骨幹端の修復過程における炎症動態の解明
	口腔生理学	助教	壇辻 昌典	1,500,000	セロトニン神経系に着目した、咀嚼運動を制御する神経回路の解明
	口腔微生物学	兼任講師	山田 理	600,000	う蝕罹患歯質における赤色励起蛍光発現条件の開発
		特別研究生	宮久保 あや子	(※1) 0	メタゲノム解析を用いた口腔内細菌叢と内頸動脈狭窄症との関連性の追求
	歯科薬理学	助教	畔津 佑季	700,000	骨と歯の恒常性維持機構におけるグルココルチコイドの機能解析
歯科保存学/歯周病学部門	兼任講師	池田 裕一	900,000	エナメルプロテインを用いた多機能性メンブレンの歯周組織再生への応用	
歯科保存学/歯内治療学部門	客員講師	高林 正行	400,000	複合現実(MR)による外科的歯内療法の視覚支援開発	
若手研究	歯科補綴学/顎関節症治療学部門	兼任講師	佐藤 多美代	600,000	覚醒時ブラキシズムの発生と脳血流酸素動態の関係
		助教	楠本 友里子	700,000	無歯顎者の補綴治療法ディジションメイキングにおける予測モデルの構築
	歯科補綴学/歯科補綴学部門	助教(歯科)	小原 大宜	500,000	睡眠時ブラキシズムのデータベース構築および疾患構造の解明
		助教(歯科)	青木 理紗	2,600,000	オクルーザルスプリント型診断装置による新たな睡眠時ブラキシズム診断の有用性の検証
	歯科補綴学/歯科補綴学部門	兼任講師	中井 健人	1,400,000	睡眠時ブラキシズム患者に特異的な細胞間ネットワークの解明と疾患モデルへの展開
		兼任講師	飯泉 亜依	1,100,000	CAD/CAM技術とスプリント摩耗評価に基づく睡眠時ブラキシズム診断手法の確立
	口腔外科学/顎顔面口腔外科学部門	助教	稲田 大佳暢	800,000	シュワン細胞調節性オートファジーが末梢神経損傷後の神経再生に与える影響の解明
		助教	守谷 崇	2,100,000	除脳動脈灌流標本を用いたイミダプリルの作用メカニズムの解析
		兼任講師	高松 弘貴	800,000	シェーグレン症候群患者へ対する新規治療方法の開発
	口腔外科学/口腔腫瘍外科学部門	助教	安部 勇蔵	2,300,000	低酸素・低栄養状態の口腔扁平上皮癌細胞におけるTPD52の機能解明
口腔病態診断科学/口腔病理学部門	助教	石田 尚子	1,900,000	ヒト唾液腺オルガノイドを用いたPLAG1遺伝子の解析	

※1: 研究中断に伴う継続課題のため、今年度の配分金無し

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
若手研究	歯科矯正学	講師	長濱 諒	500,000	3次元症的症例分類からのHemifacial microsomiaのヒトゲノム解析
		助教	鬼丸 美菜子	500,000	機能的顎矯正装置により発生する荷重ベクトル計測システムの確立
	歯科理工学	助教	渡邊 知恵	1,500,000	老化抑制遺伝子欠損マウスの切歯を用いた加齢に伴う硬組織劣化機構の材料学的分析
		助教	下村 直史	500,000	ナノインデンテーション試験によるS-PRG作用歯の歯質強化機構の解明
	小児成育歯科学	兼任講師	松島 瞳	800,000	乳幼児期におけるミテイスレンサ球菌の口腔内細菌叢形成における役割の解明
		講師	野末 真司	300,000	頸部聴診法を用いた咽頭通過時における食塊形成の診断精度の解明
	口腔健康管理学/口腔機能リハビリテーション医学部門	兼任講師	小池 丈司	600,000	頭頸部がん治療後の口腔乾燥に対する新規治療法の確立
		助教	菊池 真理子	1,200,000	ストレス誘導性口腔内細菌叢のバランス異常に対する唾液メラトニンの影響の解明
	全身管理歯科学/医科歯科連携診療歯科学部門	助教	松井 庄平	1,900,000	口腔内細菌叢ディスバイオーシスが認知症に及ぼす影響の解明
		講師	嘉手納 未季	100,000	自閉症患者への新しい行動変容法の開発-ARの応用によるトークンエコノミー-
研究活動スタート支援	全身管理歯科学/障害者歯科学部門	講師	嘉手納 未季	100,000	自閉症患者への新しい行動変容法の開発-ARの応用によるトークンエコノミー-
		助教	田下 雄一	300,000	早期社会復帰に向けた嚙下訓練支援アプリ使用によるQOLおよび全身・嚙下機能の変化
	歯科矯正学	助教(歯科)	瀧澤 秀臣	1,100,000	神経堤幹細胞の多分化能を利用した新しい唇顎口蓋裂への治療方法の基盤構築
		助教	浦野 絵里	1,100,000	毛包内神経堤由来幹細胞による広範囲顎骨再建法の創成
	歯科補綴学/歯科補綴学部門	助教(歯科)	枅 澤那	1,100,000	デジタル印象の精度・真度を補償するデバイスの開発および実用化に向けた戦略的研究
		助教	堅田 凌悟	1,100,000	ダイレクトリプログラミング技術によるヒト線維芽細胞より唾液腺細胞の誘導法の確立
	口腔外科学/顎顔面口腔外科学部門	助教	天田 かおり	1,100,000	骨の生理的・病的酸性化がもたらす骨代謝の変化における骨細胞の役割の解明
		助教	梶原 里紗	1,100,000	オプトジェネティクスを用いた咀嚼-唾液分泌機構の解明
	全身管理歯科学/歯科麻酔科学部門	助教	梶原 里紗	1,100,000	オプトジェネティクスを用いた咀嚼-唾液分泌機構の解明
		講師	田中 準一	(※2) 0	次世代胚盤胞補完法と大動物を用いた機能的な唾液腺の創生

※2: 研究開始年度に全額入金有り

## 薬学部

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	基礎薬学/医薬化学部門	教授	福原 潔	1,000,000	アミロイドβ切断活性を有するアルツハイマー病治療薬の開発
		教授	柴沼 質子	890,000	呼吸鎖活性一代謝ストレス応答系の共役機構の破綻に基づく臓器横断的癌治療薬の提案
	基礎薬学/腫瘍細胞生物学部門	講師	森 一憲	1,200,000	転移抑制を目指したRac1によるintegrin β4の分解抑制機構の解明
		講師	村山 周平	1,300,000	光応答性ナノ粒子を用いた低分子化合物の微細空間における活性の量的制御法の開発
	基礎薬学/生体分析化学部門	教授	板部 洋之	900,000	Sar1bの機能に基づいた新たな細胞内脂肪滴の形成制御因子群の探索
		准教授	小濱 孝士	1,500,000	血管内皮細胞機能に及ぼす好中球細胞外トラップとリポタンパク質の影響
	基礎薬学/生物物理化学部門	教授	合田 浩明	300,000	量子化学計算に基づいたリガンド結合部位の分子相互作用場算出法の開発
		教授	沼澤 聡	1,400,000	薬物中毒治療に活用可能な過量投与時のトキシコキネティクス情報の集約
	基礎医療薬学/毒物学部門	准教授	芦野 隆	1,000,000	高求核活性イオウ分子による血管レドックス制御と動脈硬化進展抑制への応用
		講師	光本 明日香(貝崎)	1,200,000	ADHD治療薬のDOHaD影響-エピジェネティクス作用と発達障害-
若手研究	基礎医療薬学/薬剤学部門	准教授	原田 努	2,300,000	とろみ水を用いた服薬における錠剤の崩壊遅延機構の解明と改善方法の検討
		講師	齊藤 清美	1,400,000	低侵襲かつ簡便な統合失調症評価指標の確立: 唾液アディポネクチンを用いて
	基礎医療薬学/薬物動態学部門	准教授	杉山 恵理花	600,000	個別化医療を目指した13C-リドカイン呼気試験による薬物動態変動評価系の検討
		講師	田島 正教	700,000	運動誘導性摂食抑制物質の経口製剤化へ向けた基礎研究
	基礎医療薬学/薬理学部門	准教授	柴田 佳太	900,000	真菌由来天然物を用いた糖尿病性腎症の新たな治療戦略の構築
		講師	古林 創史	1,000,000	CHP3欠損マウスを用いた糖尿病由来の心不全発症メカニズムの解明
	社会健康薬学/衛生薬学部門	客員教授	姫野 誠一郎	1,100,000	ヒ素の血管毒性および筋肉毒性の機構解明
		講師	依田 恵美子	600,000	雌性生殖を制御する膜リン脂質代謝酵素の機能解析
	社会健康薬学/衛生薬学部門	講師	依田 恵美子	600,000	雌性生殖を制御する膜リン脂質代謝酵素の機能解析
		講師	佐々木 由香	1,000,000	化学物質曝露に伴う膀胱疾患の発症進展におけるプロスタグランジン合成酵素の機能解析

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名	
基盤研究(C)	社会健康薬学/社会薬学部門	教授	岸本 桂子	1,000,000	薬局における薬剤師と慢性疾患患者の双方向的な情報提供促進に繋がる対話構造の解明	
		助教	熊木 良太	300,000	薬局における臨床栄養教育カリキュラムの確立	
	社会健康薬学/薬剤疫学部門	教授(員外)	今井 志乃ぶ	1,200,000	処方カスケードによる医療費増大の可視化 -カルシウム拮抗薬とループ利尿剤を例に-	
	臨床薬学/がんゲノム医療薬学部門	教授	藤田 健一	1,000,000	肝がん患者でのアルブミン低下と治療薬レンパチニブの遊離形体内動態・薬物応答の関連	
	臨床薬学/天然医薬治療学部門	教授	川添 和義	1,600,000	漢方薬を活用した口腔乾燥改善薬開発 ~iPS細胞と臨床による検証~	
	臨床薬学/臨床栄養代謝学部門	講師	唐沢 浩二	800,000	プレバイオティクス含有栄養剤と医薬品の相互作用の解明	
	病院薬剤学	准教授	須永 登美子	950,000	有害事象報告データおよびレセプトデータを用いた薬物相互作用に関する研究体制の構築	
	基礎薬学/腫瘍細胞生物学部門	助教	日暮 大渡	1,600,000	呼吸鎖複合体IIによるヒストン修飾制御を介した癌増殖メカニズムの解明と臨床的意義	
	基礎薬学/生物物理化学部門	助教	渡邊 友里江(小田)	1,700,000	新規慢性疼痛治療薬開発のための、PAC1Rを標的としたin silico創薬	
	基礎医療薬学/薬理学部門	助教	篠内 良介	2,400,000	「さする」様な機械刺激に注目したバクリタキセル誘発性末梢神経障害の解明	
社会健康薬学/衛生薬学部門	助教	落合 翔	1,800,000	炎症性疾患におけるマクロファージに局在するプロスタサイクリン合成酵素の機能解析		
若手研究	臨床薬学/がんゲノム医療薬学部門	講師	松本 奈都美	1,100,000	カベシタピンの体内動態・毒性と核酸を輸送するトランスポーターの遺伝子多型との関連	
		講師	半田 智子	600,000	アプリを用いた免疫チェックポイント阻害薬治療中のがん患者の副作用管理	
	臨床薬学/臨床研究開発学部門	准教授	肥田 典子	900,000	川崎病患児へのアスピリンミニタブレットの適応 ~ミニタブレットの実用化を目指して	
		講師	山崎 太義	1,100,000	とろみ調整食品併時の抗菌薬への影響~健康成人を対象とした薬物動態の検討~	
	臨床薬学/臨床病態学部門	助教	前田 耕平	1,200,000	乾癬における新規細胞性免疫活性化メカニズムの解明	
	病院薬剤学	助教	磯部 順哉	1,900,000	食道がん周術期における免疫疲弊とデイスバイオオーシスが免疫療法に与える影響	
		助教	永尾 美智瑠	800,000	プレガバリン経皮吸収剤の安定性・安全性の確立	
	研究活動スタート支援	病院薬剤学	助教(薬科)	山口 智亮	1,100,000	真菌由来天然物を用いた非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の新たな治療戦略の構築
	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	社会健康薬学/衛生薬学部門	客員教授	姫野 誠一郎	2,900,000	ヒ素による代謝性疾患発症機構の解明を目指すフィールド・基礎融合研究

次号(Dec. 2023~Jan. 2024)では、保健医療学部と富士吉田教育部、研究所等の一覧を掲載する。

## 令和5年度秋季・令和6年度春季I期 大学院入学試験結果

研究科	試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数
医学研究科	秋季	2023年 8月19日	若干名	5	5
	春季I期		60	12	12
歯学研究科	秋季		若干名	1	1
	春季I期		22	4	4
薬学研究科	秋季	若干名	8	7	
	春季I期	15	15	15	
保健医療科学研究科	博士前期課程	2023年 8月26日	若干名	8	8
	博士後期課程		若干名	2	0
合計			-	55	52

## 令和6年度 助産学専攻科入学試験結果

試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数
令和6年度入試	2023年10月7日	15	76	15

# 修了生・新入生一覧 昭和大学大学院

令和5年度秋季修了生

## 医学研究科

11名

宇野宏光・小野貴広・金子佳右・崎川慶・島田翔太郎・新屋光一朗・高宮新之介・豊崎瑛士・門馬佑太郎・山下恒聖・山田真理

## 歯学研究科

4名

赤塚加奈子・飯泉嘉基・若月萌音・林真奈美

## 薬学研究科

3名

竹安葵・徳留真優・中川英嗣

## 保健医療学研究科前期

10名

石埜靖一郎・上村杏菜・梶原真樹・神崎俊治・菊田一夫・高木誓也・高橋拓也・塘地正美・南部恭子・藤永滯

## 保健医療学研究科後期

4名

阿蘇卓也・鈴木哲理・龍由季乃・浜辺峻弥

令和5年度秋季新入生

## 医学研究科

5名

折笠真由子・寺屋直樹・望月清司 (ほか2名)

## 歯学研究科

1名

高田亜理菜

## 薬学研究科

7名

小川隆則・小林祐希・富山弘野・西村由弥子・福田晃貴・本田優気・山川直利

## 保健医療学研究科前期

8名

植松正・篠崎千早・荘司学・平田千晶・山崎太輝・山寺修平・渡邊大貴 (ほか1名)

# 夏季スポーツ大会競技結果

8月に実施された第66回東日本医科学生総合体育大会と第55回全日本歯科学生総合体育大会の8位までの入賞は次のとおり。

## 第66回東日本医科学生総合体育大会

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
男子200m平泳ぎ	第5位 (医学部2年 山田豊志大)
男子400m個人メドレー	第6位 (医学部2年 山田豊志大)
女子円盤投げ	第7位 (医学部5年 野口朋子)
柔道女子団体戦	第3位
馬場馬術部門	準優勝 (医学部6年 山本珠里、新井元)
(馬術) ジムカーナ部門	第2位 (医学部1年 梶谷栄太) 第3位 (医学部2年 林真央)
(馬術) 障害飛越部門	優勝 (医学部6年 新井元、5年 西谷秋星、窪田和孝)
馬術部門	総合優勝 (医学部6年 山本珠里、新井元、5年 西谷秋星、2年 林真央、海田理緒、1年 梶谷栄太、福満怜) 最優秀選手賞 (医学部5年 西谷秋星)
軟式庭球 男子ダブルス	第3位 (医学部5年 佐藤貴文、幸石綜平)
軟式庭球 女子ダブルス	第6位 (医学部5年 山本きらら、倉石佳菜子)
軟式庭球女子総合	第3位
軟式庭球男子総合	第6位

## 第55回全日本歯科学生総合体育大会

競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
女子400m フリーリレー	第6位 (志水海那美、新井佑理、菊川紗璃、中嶋日向)
(陸上)男子100m	第1位 (歯学部3年 宮定太一)
(陸上)男子200m	第1位 (歯学部3年 宮定太一)
バレーボール(男子)	優勝 大会MVP (歯学部3年 田中豪)
(柔道)男子66kg級	第3位 (歯学部6年 嘉ノ海達士)
(柔道)女子の部	優勝 (歯学部6年 藤島美穂)
バドミントン 女子シングルス	第3位 (歯学部2年 大野華穂)
バドミントン 女子ダブルス	第1位 (歯学部2年 大野華穂、五十嵐舞)
バドミントン 男子ダブルス	第3位 (歯学部6年 中原颯大、歯学部5年 荒木一成)
(バドミントン)男子団体	第4位
(バドミントン)女子団体	第3位
(バドミントン)総合団体	第3位
卓球男子シングルス	第3位 (歯学部4年 塩田光太郎)
硬式庭球男子総合	第6位

# 学内会議報告



## 就任のお知らせ(9月12日 理事会承認)

### 医学部脳神経外科学講座担当 教授

[勤務地：昭和大学藤が丘病院脳神経センター(脳神経外科)]



#### 津本 智幸

医学部脳神経外科学講座担当 教授(員外)  
[勤務地：昭和大学藤が丘病院脳神経センター(脳神経外科)]  
任命日：令和5年10月1日

### 医学部放射線医学講座(放射線治療学部門)担当 教授

[勤務地：昭和大学藤が丘病院内科系診療センター(放射線治療科)]



#### 今井 敦

医学部放射線医学講座(放射線治療学部門)担当 教授(員外)  
[勤務地：昭和大学藤が丘病院内科系診療センター(放射線治療科)]  
任命日：令和5年10月1日

### 医学部産婦人科学講座担当 教授

[勤務地：昭和大学藤が丘病院外科系診療センター(産婦人科)]



#### 森岡 幹

医学部産婦人科学講座担当 准教授  
[勤務地：昭和大学藤が丘病院外科系診療センター(産婦人科)]  
任命日：令和5年10月1日

## 理事会関係

### ◆新キャンパス整備について

新キャンパスの名称を「鷺沼キャンパス」とし、以下のとおりキャンパス整備事業を進めることが承認された。

【計画地】神奈川県川崎市宮前区鷺沼4-4-1(現：鷺沼校地)

【主要用途】教育施設(大学)の設置

【対象学生】医学部・歯学部・薬学部の2・3年次と4年次の一部、保健医療学部の2～4年次、助産学専攻科の学生 約2,000人を想定

【敷地面積】約36,800m<sup>2</sup>

【建物階数】地上3階建

【着工(予定)】令和6年度

【竣工(予定)】令和8年度

### ◆令和4年度私立大学等経常費補助金の確定

私立大学等経常費補助金は、私立大学等の教育条件の維持向上と学生の修学上の経済的負担の軽減を図り、私立大学等の経営の健全性を高めることを目的として、毎年度、文部科学省から日本私立学校振興・共済事業団を経由して大学に交付される。この補助金には、大学運営に不可欠な教育研究に係る経費を支援する「一般補助」と、改革に取り組む大学を支援するための「特別補助」がある。令和4年度は、大学583校、短期大学270校、高等専門学校2校の計855校に交付され、本学は、大学では3番目に多い交付額だった。

【確定額】5,974,726千円

内訳 一般補助 5,737,084千円

特別補助 237,642千円

参考/令和3年度私立大学等経常費補助金

【確定額】5,533,712千円 内訳 一般補助 5,289,250千円

特別補助 244,462千円

### ◆公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団への寄附

同財団は、医学・医療に関連する領域の教育・研究・医療の実践者に対する支援事業を行うことによって、国民の健康増進に貢献することを目的に、平成25年4月に設立された。令和5年度は、以下の金額を寄附することが承認された。

【寄附金額】5,000,000円

### ◆株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所設立に際する出資

昭和大学発ベンチャー企業「株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所」の設立に際し、同企業から出資の要望を受け、株式取得により2,520万円を出資することが承認された。

### ◆新型コロナウイルス感染症に関する対応について

久光学長から、学生に求める感染拡大防止対策について、以下のとおり、後期から運用を変更する旨の報告がなされた。

・体調不良時の保健管理センターへの報告について、前期は「何らかの体調不良を感じる場合」に報告を必要としていたが、後期からは「発熱(37.5℃以上)または上気道症状が生じた場合」とする。

・接触者について、前期は「授業に出席しないこと」「病院に立ち入らないこと」としていたが、後期からは「マスクを常時着用し、食事の際は個食(一人で食べる)、黙食(黙って食べる)とすることを条件として、授業に出席することを認める。」こととする。「病院に立ち入らないこと」は継続する。

# i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

## リカレントカレッジ事務局

### 秋期プログラム開講・特別企画開催決定!

9月24日よりリカレントカレッジ秋期プログラムが開講しました。学歴や年齢を問わず、多くの方々がリカレントカレッジという新たな学びの場で共に学んでいます。また、対面とオンラインを併用したハイブリッド型講座では、全国各地から受講生にご参加いただいています。

さて、この度、2023年度昭和大学リカレントカレッジ特別企画(冬)として、「日本の伝統芸能を知る『落語』」を開催する運びとなりました。今回は品川区武蔵小山出身、人気番組の大喜利メンバーでおなじみの落語家・桂宮治さんをお招きし、講演会と落語を一席披露していただきます。

リカレントカレッジ受講生・本学教職員・本学学生は先着100名参加費無料となっておりますので、ぜひお問い合わせの上ご参加ください。



出演：落語家・桂宮治氏

第一部：講演会「落語とコミュニケーション術～明るい所に花は咲く～」

第二部：落語一席

※演目は当日発表します。お楽しみに!

【日時】2024年1月6日(土)14:00～

【会場】昭和大学上條記念館 上條ホール

【申込】リカレントカレッジ受講生・本学教職員・本学学生は、右のQRコードからお申込みください。



※ご本人様のみお申込み可能。

※一般の方もご参加いただけます。下記チケットをお買い求めください。

【一般チケット販売】

料金 3,000円(全席指定) チケット好評発売中!

窓口 きゅりあん、スクエア荏原、メイプルカルチャーセンター、  
O美術館

電話 03-5479-4140

…チケットセンターCURIA ※電話予約は座席選択不可

Web <https://www.shinagawa-culture.or.jp/>

…「しながわぶんか」で検索

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：[recurrent@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:recurrent@ofc.showa-u.ac.jp)

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

## アスリート支援事務局

### 第12回女子日本アイスホッケーリーグ(2023-24 SMILE JAPAN LEAGUE)報告 女子アイスホッケークラブ「ブルーウィンズ」

2023年10月7日(土)～9日(月・祝)北海道釧路市(釧路アイスアリーナ・KKS釧路厚生社アイスアリーナ)にて第12回女子日本アイスホッケーリーグ(2023-24 SMILE JAPAN LEAGUE)の第1次リーグが開催されました。試合結果は下記の通りです。

#### 【第12回女子日本アイスホッケーリーグ 2023-24 SMILE JAPAN LEAGUE 第1次リーグ】

10月7日(土)  
昭和大学ブルーウィンズ 10 vs 0 中学選抜

10月8日(日)  
昭和大学ブルーウィンズ 5 vs 1 U18全国選抜

10月9日(月・祝)  
昭和大学ブルーウィンズ 2 vs 3 TOKACHI帯広レディース

なお、今後の大会スケジュール(予定)は下記の通りとなります。

【第2次リーグ】2023年11月23日(木・祝)～25日(土) 苫小牧市

【ファイナルリーグ】2024年2月23日(金・祝)～25日(日)帯広市

チームの最新情報は、公式ホームページ・facebook・Instagramにて随時発信しております!

引き続き、熱い応援を宜しくお願いいたします!!



#### 【選手募集中!!】

BLUE WINDSでは、選手を募集しています。メールにてお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ メール：[blue-winds@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:blue-winds@ofc.showa-u.ac.jp)



上條記念ミュージアム

「昭和の医療機器」展 開催中!

上條記念ミュージアムでは、第5回企画展「昭和の医療機器」を開催しています。昭和大学の創立以来、教育や臨床の現場で使用された医療機器の展示を通じて窺える昭和大学の歴史を、当時の写真とともに紹介しています。



【開館】 火曜日・金曜日  
13:00~15:00 (予約制)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



Follow Showa

X (Twitter)

Instagram

昭和大学広報担当では日々のお知らせや大学キャンパス、各附属病院のイベント情報などをX (旧Twitter)、Instagramで発信中です。凛々しく研鑽に励む学生・職員の皆さんの姿や四季折々のキャンパス風景など、明るく元気にお伝えしていきますので、ぜひ昭和大学の「いいね!」な出来事と一緒に楽しみください。

**お詫びと訂正**  
2023年9月号(第615号)のP13に掲載しました、看護キャリア開発・研究センターサードレベル開講式の記事において、役職名に誤りがありました。正しくは「増田千鶴子センター長」です。ここにお詫びして訂正いたします。

総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

同窓/亀嶋 義男 様 (医学部・19回生)、伊賀 八重子 様 (薬学部・4回生)

職員(50音順)/秋山 好司 様、阿久津 靖 様、飯島 裕之 様、磯飛 雄一 様、稲富 誠 様、橘 高大介 様、齊藤 哲也 様、佐々木 武弘 様、鈴木 慎太郎 様、武 俊夫 様、中田 昌宏 様、藤井 智希 様、堀ノ内 陽子 様、水野 克己 様、村上 秀友 様、安原 理佳 様、山部 加奈子 様、山本 松男 様、渡辺 秀晃 様

一般/品川合同葬祭株式会社 様、野中熱工株式会社 様、株式会社 雄電社 様

【薬学部への寄付】

伊賀 八重子 様 (薬学部・4回生)

【研究所への寄付】

同窓/中山 壽朗 様 (医学部・35回生)

【各クラブ・学生会への寄付】

職員/稲富 誠 様

同窓/昭和大学アメリカンフットボール部 OB・OG会 様、鈴木 満 様 (歯学部・1回生)

【大学主催行事への寄付】

同窓/塩尻 泰宏 様 (医学部・67回生)

※収納期間：8月1日～9月30日

**今号の表紙写真**

表紙は10月14日・15日に開催した旗ヶ岡祭から。今年のスローガン「開花」には、学生ひとりひとりが楽しみ、来場者の方の笑顔も咲かせるという想いがこめられています。期間中にはホームカミングデーも開催され、卒業生たちの母校を懐かしむ姿が見られました。秋の一大イベントを終え、ほっと一息のキャンパスは、11月15日に創立95周年を迎えました。次号では記念式典などの様子をお送りします。

**SHOWA UNIVERSITY NEWS** vol. 7

昭和大学  
SHOWA University

November 2023  
昭和大学新聞 通巻第616号  
令和5年11月30日発行  
年6回発行

【本誌について】  
発行人 小口 勝司  
編集 総務課 大学広報係  
(03) 3784-8059  
press@ofc.showa-u.ac.jp

【各種募金・寄付について】  
企画課 (03) 3784-8387  
【学事について】  
学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)  
(0555) 22-4403 (富士吉田)  
(045) 985-6503 (横浜)  
大学院課 (03) 3784-8793  
入学支援課 (03) 3784-8026

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。  
制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

❗ 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。